

平成30年4月から

国民健康保険制度が変わります

国民健康保険は、病気やけがをしたときに安心して病院にかかることができるよう、加入者の皆さんでお金を出し合い、お互いに支え合っていく制度です。平成30年度から、都道府県が国保の財政運営の責任を担い、市町村とともに国保の運営主体(保険者)となります。

問い合わせ 保険年金課 ☎24・8058

予防先進
のまち
こまつ

なぜ、財政運営の
主体が
都道府県に
変わるの？

■ 国保の現状と課題

国民健康保険は、「年齢構成が高く、医療費水準が高い」「所得水準が低く、保険税の負担が重い」といった構造になっているため、国保税などの収入よりも医療費などで支出するお金の方が多くなり、各市町村では厳しい財政状況が続いています。

■ 制度改正による財政の安定

これからも国民皆保険の基盤である国民健康保険制度を維持していくため、都道府県が国保運営の中心的な役割を担うことで、国保財政の安定化を図っていきます。

■ 国保加入の皆さんに関係のある主な変更点

① 保険証などに「石川県」と表記されます

有効期限までは、現在お手持ちの保険証などをそのままお使いください。
新しい表記の保険証などは、有効期限近くになりましたら、小松市から送付します。

② 高額療養費の多数回該当が県単位で通算されます

石川県内の他市町間で転入・転出した場合でも、前住所地と同じ世帯状況であることが認められる場合は、多数回該当の回数を引き継ぎます。

③ 保険税の決め方が変わります

これまでは小松市が個別に医療費などを推計し、保険税を決定していましたが、今後は石川県が決めた納付金*を納めるために、保険税を決めることになります。

■ これまでどおり小松市が皆さんの窓口です

- ① 保険証などの交付
- ② 高額療養費などの保険給付手続き
- ③ 保険税の決定と収納
- ④ はつらつ健診などの保健事業 など

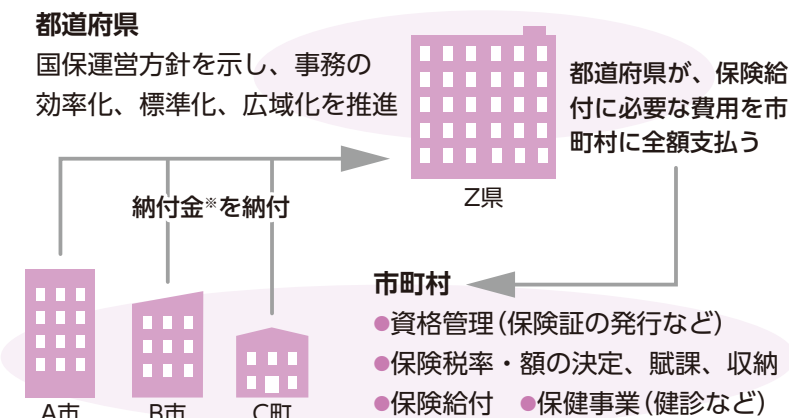
変わらないことは？



現在 市町村がそれぞれ
国保財政運営の責任主体



平成30年度～ 都道府県が国保財政運営の責任主体



※納付金…都道府県が市町村の医療費水準や所得水準などを基に市町村ごとに決定するもの

考えよう、
鉄道の未来。
みんなで創ろう、
地域の未来。

北陸新幹線金沢・敦賀間の開業に向けて、建設工事が進んでいます。そして5年後、いよいよ新幹線がこのまちにやってくる。暮らしやビジネス、滞在など、まちが変わるターニングポイントを前に、地域の魅力や公共交通、新幹線に想いを寄せ、未来創りに向けてアクションを起こしませんか。

人の動きが
ますます活発に

小松駅は1日あたり約4100人もが乗車し、通勤や通学、ビジネスや観光など、私たちの生活に欠かすことのできない交通機関です。

小松空港の国際線利用者数は年間20万人を超え2009年の約2倍となり、市内の外国人宿泊者数は年間約1万3千人と2009年の8倍以上となっています。

このように人の行き来が増えていることは「まちの魅力」が高まっている証です。

現在の小松駅に隣接して誕生する「新幹線小松駅」。南加賀地域の中央に位置し、小松空港からのアクセスにも大変便利です。周辺ゾーンにも様々な施設が集まり、まちはこれからも更に進化していきます。

新幹線時代に
ふさわしい地域づくり

新幹線小松駅は、小松市民はもちろん、能美市からも多くの人が利用することが見込まれます。能美市と小松市は通勤や通学、買い物などの日常生活や、産業、歴史、文化など様々な面で密接なつながりがあります。

小松の皆さんだけでなく能美市をパートナーに、新幹線が走るまちの未来に向けて、一丸となって取り組むことで、さらに大きな成長のパワーが生まれます。

能美・小松のみんなのパワーで、地域の未来を共に創りましょう。

次代を拓く子どもたち、地域のみんなで考えよう

NOMI ∞ KOMATSU 未来をひらく Railway フォーラム

北陸新幹線のデザインを手掛けた世界的工業デザイナーによる講演

と き 3月21日(水・祝) 13時15分～
ところ こまつ芸術劇場うらら大ホール

入場
無料

特別講演 | これからの100年をデザインする



工業デザイナー／
KEN OKUYAMA DESIGN代表
[北陸新幹線車両デザイン監修]

奥山 清行氏

[主な代表作]
トランスイート四季島／フェラーリ エンツォ
北陸新幹線／秋田新幹線／ヤンマートラクター
そのほか家具、眼鏡など多数



2023年春
北陸新幹線小松駅開業[予定]

問い合わせ 小松・能美鉄道利用連携会議事務局 (経営政策課内) ☎24・8037 ✉kikaku@city.komatsu.lg.jp